

【翻訳】ゲオルク・クリストフ・リヒテンベルク
ホガース銅版画の詳細な解説 第四分冊 3と第五分冊
1——リーペンハウゼンによる完全な複製
ゲッティンゲン, Joh. Chr. ディーテリヒ出版社
1795年, 1799年

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉用, 宣二 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/2000016

【翻 訳】

ゲオルク・クリストフ・リヒテンベルク
ホガース銅版画の詳細な解説 第四分冊 3と
第五分冊 1

リーペンハウゼンによる完全な複製

ゲッティンゲン, Joh. Chr. ディーテリヒ出版社 1795年, 1799年

吉 用 宣 二 訳

〔第五の版画の続き〕

この騒音で夜警が目覚まし、宿屋の主人を起こし、この主人が警察を起こす。そこに彼らはみんなドアのところに立っている、一部は人物として、別の部分は代表として、そして世界の最も自然であるところの戦術に従って置かれて、すなわち、諸党派の闘心に従って。前方に宿屋の主人、左手に五つの感嘆符を持って、そしてもし時代がもっと良くならなければ、印刷機活字盤 [Buchdruckerstock] のもとに受け入れられるに値する顔をして。彼の家の名誉を守ることが重要である。彼の後ろに警察の代表者である巡査が彼のステッキをもって立っている。イギリスでは何百も見られる素晴らしい人物、牛肉とプディングの本物のがっしりした合成物 [イギリスの性格の総括概念として]、赤褐色に赤熱しながら、二つの座席ほどずんぐりして、がっしりした。快適な湾曲の消化器具を少し前に突き出して、国の借金 [National-Schuld] と税の圧迫 [Taxendruck] の本当の象徴とともに。 - 彼の右手は注意を喚起するように宿屋の主人の肩の上にある。彼は冷たい血と慎重さを勧めているように見える。多すぎる心を持つことは良くない、とりわけ、ピカピカの剣がまぶしく光っているこのような場合には。それがワイングラスあるいはその破片であるならば、おそらく他のことがなされるだろう。 - 夜警は、警察よりももっと用心深いのだが、司令部 [Detaschement] の先頭に立っている、後ろに。彼はあえて近づかない、近づこうとしない、彼はまた命令もしない、彼はただあかりで照らしている。彼からは右手とランタン以外の何も見えない、そのランタンの空気穴は部屋の天井で遠近法の規則に従って模写されている、そしてそこで王座の上の一種の天蓋になっている、その王座についてわれわれはその時に話すだろう。Silbermund氏は、彼の勝利を確信していたが、その小さな司令部のゆえに逃げ

出す。弁護士として彼は他の誰よりももっとよく知っている、そのドアの中の福祉 - 腹 [Wohlfahrts-Bauch] が打ち勝ちがたい軍団、つまりイギリスの犯罪司法の明るい [licht] 隊に属していること、そしてこの軍団はそのような先遣隊が姿をあらわすとき、遠くにいることはほとんどないということ。特に彼はあの仕事の中の走り寄る人と流れ去る人 [Zuläufer, Abläufer] を恐れているように見える。その他の点ではまったく重要ではない人間を。その人間たちとの交際は必ずしもよく避けられるわけではなく、その交際はすぐにとても不快なものを持つのである - すなわち死刑執行人を。それ故に大急ぎ、とても短縮された階段のある二階から道路のドアを通過しての退出 [Retirade]、その階段の一番上の段はドアの敷居であり、一番下の段は道路である。さらにそれは冬の逃走である、というのは、この版画の上の主要な現象は暖炉の火から来ているからだ、そして風のある夜、というのは、ろうそくの炎は窓からドアへの鼻かぜ - すきま風 [Schnupfen-Zug] を指し示している。そのような時にそのように押し戻されることは過酷である。とりわけそのような夏用の毛皮で。しかしこれよりももっと軽い服装であれば、おそらく最近では、勝利者は逃走しなかつただろう。ほとんど人々は Silbermund 氏を、ここで肩が覆っているその銀の口まで見る。罪はなんと滑稽な姿を作らないだろうか、もし罪が、いわゆる無実の服装で、無実が第二の裸とみなすだろう一つの側から姿をあらわさなければならぬならば。彼の姿勢は奇妙である、二階から窓から外へ（というのは、窓のよるい戸は見られないので）そして、両手足を使って降りることなく、そのように銀の口と一緒に前に跳ぼうとすること。それは危険な跳躍となるだろう。しかし、人間はもちろん何をしないだろうか、犯罪司法の下級役人との交際を避けるために。ほとんど彼は何かを前に投げようとしているように見える、ひょっとしたらまくら、あるいはオーバーの何か、特にズボンの何かを。というのは、ホガスが、彼を読者に、あるいは読者が眠っているとき、夜警の誰かに、道路上でズボンなしに見せたいと思ったならば、彼はわれわれにおそらくまた彼なしにズボンを見せただろう。しかしその痕跡はない、戦場が部分的に、適切にそれへの対をなすものになるだろういくつかの計器類で覆われているにも関わらず、近いあるいは遠い戦争のためのすべての種類のクジラひげ鎧、コルセット、張り骨入りのスカート★、頭巾、仮面、刺しゅうされたダンスシューズ、短剣と剣の鞘などのような。砦からの突然の出撃の際にその若い兵員は、そう見えるように、過失から戦場薬局 [Feldapotheke, 薬箱] にぶつかった、それをひっくり返し、小さなブドウ粒のような霰 [Traubenhagel, 錠剤] の小さな缶を壊した、 - そのブドウ状散弾を薬学は有名な冷たい液体状の金属 [水銀] から鑄造することを教えている -、そして他には、その清潔な家とその主人の宛名のもとで特許のもとでのように走り回っている小さな悪魔 [Diabolini] のためにあるかもしれないものを壊した。

- ★ このようなとても軌道の広い張り骨入りスカートはおそらく尼僧の服装には属していない、「当世風の結婚」第四の版画を見よ、それは狼の装いの子羊を与えるだろう。この機会に私は一つの小さな発言をとり戻す。上記（第五の版画）で言われた、その女はここでシャツだけでひざまずいていると。厳密な意味においてはその場合ではないにもかかわらず、他の衣服によっては実直さのためにも恥ずかしさのためにも少しのものも獲得されないのだ。それゆえに表現における強調がある程度そのシャツに言及することを要求したのだ。イギリスの婦人方は、おそらく他の場所でも広く行われているように、シャツの上に軽い寝間着（bedgown）を着て眠る。彼女たちが何かの機会にこれをなしで済まさないければならぬならば、当惑するばかりか、本来的な意味における初期の要件のゆえに気まぐれ悪く感じただろう。今われわれの婦人は家の外にいて、そのような快適さが持たれることができない片隅売春宿 [Bagnio] で眠ったので、彼女はシャツの上にただだぶだぶの夜会服 [Robe] (sack 婦人のゆったりとしたドレス) を身につけたただけだ、その夜会服を彼女はその前には張り骨入りスカートの上に着ていた。絹の襷ができていこととその衣服の大きな長さはこのことを認識させる、そしてそれを、一方で人が見るようにそれによってまったく覆われていないシャツから区別する。ちなみに流行と快適さに対する高い度合いの感じやすさが実直さに対する感じやすさの完全な不足とうまく折り合うということは、イギリスの外においても知られている。

コルセットの隣に紐で固定する [aufschnüren] ための何かがある、そのコルセットと形において似ていないわけではない、そして硬さにおいてとても近い親戚関係にある、[薪の] 束 [Welle]。本当にわれわれの芸術家はこれら二つの柴束を理由なしにそんなに隣り合って投げ出したのではない、またおそらく、剣の形をしていて殺人的に下に向けられている二つのものを理由なしに投げ出したのではない。そのようなものはほとんど自殺のように見える。おお確かにこの部屋の中には、予言的に将来のことが幽霊のようにさまよっている、そして下の柴束の中の剣は上の柴束のために慰めとなるものを多く告知してはいない★。

- ★ 芸術家の奇妙な気分を知ったわれわれの読者たちは薪の束とコルセットとの比較、こん棒 [剣] つか部 [Bengelkreuz] と一つの剣やすべてのこれらの関係するものとの比較をまったくありそうもないことだとか、悪趣味だとか思わないだろう。しかし著者自身が、それは疑われないことだが、実際にそのようなものを彼の仕方の中に持ったならば、恐らく一人の公正な読者はその注釈者を許すのである、彼が自分の責任で、暗い箇所 [loco] この種のことの罪を犯すならば。

この薪の束は暖炉の前にある、人が火ばさみの影から認識するように、その影はそこで殺人者の剣を越えて、床の上に伸びている。その影はここで主要グループを照らしている同じろうそくから来ている。しかしここに石炭ではなく、半分朽ちたこん棒が燃やされているという状況はある別の遠近法の規則に従ってまた一つの別の光をこの部屋に投げるのだ。少なくとも首都において、とりわけ公共の家において、これは私が知っている限り、常に汚れた低級さを証言している。そしてこの場合、それがどのようなかすかな [fein] 片隅であるか

を証明している、二人が曖昧宿に選んだ片隅が。－ かなりの火にとても近くある火ばさみがそのように鋭い影を投げることができるかどうか、それはここではもっと近く調べられることはできない。影はここでは、暖炉の火を示す半分任意の記号である。それは完全に自然な記号であるようには見えない。しかしホガースが彼の作品の中で影をそのように不自然に利用したのは一度きりではない、彼自身が目の前にもたすことができなかつた物たちの現存をそれによって指し示すために。また、そのような影を投げるができるために、そのような火ばさみがどうしてそのような火の前に置かれたのかを人は理解しない。というのは、火ばさみは寄せかけられているようにも、つるされているようにも見えないからだ、それはだからおそらく何かの暖炉の何かの漏り口 [Leck] の中に挟み込まれているに違いないか、あるいは落ちる火ばさみであるに違いない、落ちる剣が同様にそれのいくらかもっと自然な影を投げるように。－ この機会に落ちる剣についていくらかコメントを。この物語の語りの中の明白な記号としてその落ちる剣はほとんど解説を必要としない。－ 一瞬の前にそれを死にかけている男は手に持っていたと芸術家は言おうとしている、そしてそれにすぐに続く瞬間に、すなわち、ここで芸術によって創造され定着されたように見える瞬間に、剣は彼にとってすでに重すぎるのである。剣は落ちる、あるいはすでにそこに立っている－ 彼の主人のように。それがすべてである。だから、この表現についていくつかのこと、ある部分は造形芸術自体の対象として、ある部分はこの表現の現在の模写について。作家的な厚かましさからではなく、幾人かの友人によって私に表明された、容易にまたわれわれの読者の多くによってなされることができるだろう注意の喚起をきっかけとして。私は最後の点で始まりをする。おそらくオリジナル絵画から区別されなければならないオリジナル銅版画の中でその死につつある男は左腕で自分を支えている、だから剣はちょうど右手から落ちたように見える。それよりも自然なことがあるだろうかと人々は言う、というのは、確かに彼は剣を右手に持っていたから。しかしこの見せかけだけの非難はすぐに、伯爵はまさにこのオリジナル銅版画では剣がぶら下がっている剣帯の部分の右手に持っていることによって反駁される、剣はわれわれの模写では正しく左手の上にあるのだ。伯爵はもちろん彼がまだ自由に立っていたとき、剣を投げ捨て、彼の右側にあった机に向かって倒れた。またわれわれはわれわれの模写の中で、書記 [Schreiber] のもとに、あるいは彼があるところのもののもとに、部屋のドアの上方に、右手が再びその永遠の、手離すことのできない右手の中にはめ込められているのを見る、その右手を右手はオリジナル銅版画ではすべての確率に反して、左手に譲渡したのだ。リーベンハウゼン氏の模写はまたここでもオリジナル絵画と同じ側をもっている。今第一の点に。私がこの銅版画を見せたほとんどすべての人たちがその剣の位置を不自然と思ったということは私を少なからず喜ばした。なぜ喜ばしたのか。その答

え、私がそのようなことを感じるすべての人からソクラテス的な苦悩への彼らの軽い緊張の後で、最高の算術のいくつかの定理を軽い苦勞とともに問うことをあえてしたので。そのような一人は、それを明瞭に知ることなしに、生きているもの、動いているものの画家はまさに彼の描かれた表現が生きていない、静止しているので、そのただ一つの無限に小さな時点を把握することができると感じるのである。そして彼は同時に、この無限に小さな時点はしかし互いに比例関係をもっているに違いないと感じるのだ、というのは、さもないと彼は水平線に反対して傾いた剣の落下、重い剣のつかを上にした落下をその剣の主人の落下と比較して、不自然と思うことができないだろう。しかし倒れる紳士はまだ自分を支えることができた、あるいは支えただろう、しかし剣はそれができない。これが剣にとって違いを作る。そのように倒れる騎士の勲章の上に人はまたモットーを読むことができる、しかしそのように落ちる剣の上に剣を磨く人や工場の名前を読むことは難しい。伯爵の姿勢はもっと多く静止に近い、落下す剣の姿勢は大砲の弾の運動に近い、第一の版画の上で主人公のズボンのポケットから飛んできた大砲の弾。

後ろの壁に、壁紙の上に (*haute-lisse* あるいは *basse-lisse* [垂直の、あるいは水平の引っぱり上げられた経糸のあるじゅうたん織物] なのか決定されることができない) ソロモンの判決が表されている。もちろん王座の上のソロモン、王冠を除いて。彼自身の栄光の中ではなく、あるオランダの船の祝日の花盛りの中の。その男がかつてある強力な国の舵を偉大な知恵でもって導いたということを知らない人は、彼はここでは少なくとも何かの石炭船あるいはニシン漁の船の舵を操っていると思わなければならないだろう、貪欲、キュンメルとアニスの強力な影響のもとで。それらはここで明らかに目と鼻から赤く燃えている。王座の生氣のない記号もまた生きている記号ほど素晴らしいものではない。恐ろしいというよりもむしろ恐ろしく描き損なわれたライオンの頭、そして家畜小屋灯火の光線から空の十の豪華太陽で刺しゅうされた王座の天蓋がすべてである！ — 彼の前に平等の原則に従って置かれることになる子供の母が立っている。彼女が彼女のお気に入りの子供のこの分割をさまたげるためにまじめに手を伸ばして取ろうとしていなければ、人は彼女をほとんど、その表情によれば、父親と見なすだろう。というのは、頭と髪飾りは完全に男性用のもので、その上船乗りのそれのようであるからだ。そのような特徴のために人はおそらくいくつかの小さなことを見落とすだろう、つまり彼女が女のスカートを身に着けていること、そしておそらくはすでに再び完全な良い希望を持っていること [ungeteilter guter Hoffnung 妊娠している]、その司法役人はその子を左手で切り分けようとしていることは、再び Riepenhausen 氏のその版画の怠われた描き直しに反対する議論ではない。ソロモンはここで右手に王笏を持って

いる、彼がそれを周知のように常にそう持っていたように。彼の知恵はそれをそのように要求したのだ。そしてこの表現はそれ故に思い切って彼の栄光に近づこうとするすべての造形芸術家にとって規範となるのである。下級役人のただ一人の不器用な奴はいったいわれわれに何の関係がろうか。おお！ おおもし何かの下級役人がここでのように、ある政府が右手で命令したことを左手で実行するとき、人がすぐに全体を描き直そうとすれば、――世界の中で描き直しは終わりがないだろう。

旧約聖書からのこの物語についてホガースは一番新しい訳聖書からの二つの絵画を掛けた、それらの絵は、階段の上の絵とでなくとも、互いに奇妙な対比をなしている。一つの絵は、断言されるように、モル・フランダース [Moll Flanders, デフォー Defoe の同名の小説 1722 年の主人公の女性] の肖像画である、評判の悪いドルリーレーン [王立劇場がある通り] 的な路上人間 (アイルランド氏は彼女を彼の固有の言語で通知された [notified, notifiziert] と呼んでいる) 彼女のながめは始めから何か不快なものを持っているが、その不快なもののはしかなかりめかし屋 [Zier-Äffchen] と動物下女 [Viehmagd] の幸福な結合の上で失われる。人がその結合を見出したならばだが。その不快さは完全に消える、彼女を実際にここでさらしものにした滑稽な芸術家の意図が完全に明らかにされるとすぐに。手の上に彼女は小さな一角獣、また化粧をする子 [Putzmärchen] を持っている、また自分の後ろに首輪の中のオウム、またおしゃべり [Plappenmaul], を。それはおそらく他のめかし屋へのあてこすり Hieb, である、牛小屋からではなく、その家自体の二階 [bel-étage] からの。――冗談はさておき、そのような集団は実際に何かをするのだ。これらの小動物はその所有者にある年代から彼らのかわいらしさの何かを与える、そしてその代わりに、――それは同様に価値があることだが――愛好家から彼の注意深さの何かを奪う、多すぎるのが時おり不快になることがありうるとき。一言で言えば、好んで語り合うかもしれない一組の心がその母語を忘れ始めるとすぐに、それは人生の四分の三のときにその場合となることがあるのだが、あるいは彼らがひとつのテーマについて途方に暮れているとき、あるいは停滞するとき、そして頭の中のプロンプター [舞台の影で俳優にセリフを教える] を探すとき、そのときオウムや一角獣が奇蹟をなすことができるのだ。――そこで右手からぶら下がっているものを私はいつも乗馬用鞭の柄の始まり部分とみなした。アイルランド氏は明白に、それは肉屋 - 刀 (a butcher's steel) であると言っている。それは可能だろう、しかし、いったいあばずれ女 [das Mensch] がそこで鋼鉄にする、研磨する何かを持つだろうか。たださらし台。本物の、非凡な、ここでは本当に正当な気まぐれ [Mutwille] でもってわれわれの芸術家は女 [Weibers-stück] の絵をそのように掛けたのだ。ソロモンのスイス人護衛部隊の一人の男の脚が絨毯の上で彼女の脚になるように、そしてそれはまるで人が彼女のスカートを膝ま

で切り取ったかのように見えるのだ、彼女がそれに気づくことなしに。この最後の状態は事柄を本来は美しくする。この幸福な切断によって、そのあばずれ女 [Das Mensch. 18 世紀に中性形の Mensch は悪い意味を持って使われた。社会的な名誉を失った女性でなくても下級の人物を表した] は本当にスコットランド高地住民 (*Highlander*) へと彫刻される。この切断を彼の賞賛された *second sight*★がそれについて少しも知らせることなしに、その出来事がそんなに近くで起こり、その出来事を発見するために新しい特許 - 顔でさえ必要でなかったにもかかわらず。

★ *second sight* (第二の視覚, 眼 No. 3) とは、時間あるいは空間によればとても遠くにある物を見る能力、スコットランド高地住民 [oben Schoten] が、特に島にいる彼らがいまなお自慢している物を見る能力のことである。

壁紙の上の第二の絵 - 鏡。それがなぜそこに。おお、まったく確かにホガースは理由なしにその鏡をそこに掛けなかった。その枠が同時に死につくあるものの頭の周りの縁どりになるように。「もし」と彼は愚かな虚栄心に話しかけるように見える、「もし君が、スコットランド高地住民と一角獣をもったあの第一の鏡の中を見ることによってまだこの妄想から癒されていないと感じるならば、よろしい、この第二の鏡を見よ。どうしてそこに？ 君は、これらの頬をそこで覆っている化粧品を知っているか。何？ おお！ いったい君が誰であろうと、遅かれ早かれきっと時が来るだろう、君の前に置かれた鏡がこの鏡のように君の方を見るだろう時が、君は、その鏡の視線は、それが通常の忠実さで繰り返している君の視線であるということを感じないかもしれないが」。

部屋のドアの上にまた、注目に値する第三の絵が掛かっている。今度は新約聖書からだ。その男の聖なる光と雄牛から見えるように、明らかに福音史家ルカ、周知のように、アイルランド氏が正しく注釈しているように、画家の守護聖人★、彼はだからそこで奇妙な物語を描いた、見られるように、大きな熱意とともに、そして確かに緊張した注意深さとともに。角のある [gehörnt] 動物はなぜそれがその下にいなければならないのか切にみたいと思うだろう。ひょっとしたらそれはちょうど殺された男について鋭い勘を持っているかもしれない、彼のカールペーパーを昨日の朝、兄弟のアクタイオンがたいそう神秘的に指示していた。しかし私はこれがすべてではないと思う、そしてそれ故にこの解説に追記をあえてしたい、それがホガースの汲めども尽きぬものの一人の理解あるイギリス人専門家の完全な同意を得たとき、なおさら。ロンドンはある量の私的な精神病院のほかにもすべての大きな都市のように、この目的のために、よそでも十分有名な二つの大きな公的な施設を持っている、*Bedlam* と *St. Luke's* である。後者は特に不治の人のために (*for incurable*) ある。この名前

とその名を掲げている病院は、そこではたいそう有名であり、それらの結びつきはすべての頭にとってとてもよく知られているので、その名が発話されるのを聞く百人のうちの九十九人が福音史家よりもむしろ精神病院のことを考えるほどである。いま、なるほど画家の守護聖人であるが、また確かにあの病院の守護聖人である聖人のルカは手にクレヨン [Crayon] ではなく明らかに鷲ペンを持っている、人がそれを明徴にオリジナル銅版画に見るように。彼はだからそこで書いているのだ。彼はここでもまた三人の候補者の名前を、彼の財団のためにとっても威厳のある主体としてのその三人の候補者の名前を彼の登録簿の中に記入しようとしていないだろうか。少なくともこれら三人は十分に狂った生き方をした、そして彼らは一つの別の点で不治である。もちろん人はまた鷲ペンでもって絵を描く、それはしかし後者の推測を妨げない、むしろ風刺はまさにこれによって風刺の両刃性の強化を獲得するのだ。

★ ローマの *de St. Luc* アカデミーは、だからこの福音史家の名前を持っている、そして人々はローマの *Santo Luca* の絵を見せていた、ドメニコ・マニ [Domen. Manni] (本当の画家、聖ルカについて *del vero pittore Luca Santo*, フィレンツェ, 1774 年) がその誤りの起源を明らかにするまで。

最後に小さな訂正。Squanderfield 卿が、彼の愛する女が彼女の愛人と一緒にふしだらな家の中にいると知ったときに、私が上で表したよりももっと慎重に、イギリスの法にもっと適合して振舞ったということはあるそうなことである。彼は令状 (*warrant*) を手に入れただろう、そして彼は巡査 [constable] と同時にその家に来た、その家を襲撃することを彼はこの用心深さなしには決してしてはならなかつたらう。彼らはだから今警察の保護のもとでドアを一緒にこじ開けた。伯爵は剣を抜いた、Squanderfield と Co. の間の市民戦争が始まった、そして終えられた。すべては五分間で。そこまでに至らなかつたらう、離婚のゆえに、そのような証人はつねに良いのだ。これが彼の目的であったならば、彼はまたその目的に達しただろう。 - その結婚は離婚された。 - そこに、火ばさみの影の下に解く鍵がある。

第六の版画

われわれはその犯罪をいくつかの外的な結果とともに見た。彼の血の中の伯爵、冬の夜にシャツ姿で逃げるその殺人者、良心の責め苦の上に自白 [Urgicht] をしている、同じ服装の共犯の女。罰は十分だった。この版画の上で罰は二人にとって恐ろしい度合いにまで高まる、罰が法的に、法律の外で墓のこちら側で達することができる最高の度合いにまで。

彼女の親愛なる卿の肉体的な死のすぐ後で、それと結び付けられた彼女自身の道徳的な死

の後で、伯爵夫人は大都市の西のより高い世界を離れる、追放される、あるいはむしろ、同時に彼女の子供、その高貴な血と一緒にそこから彼女が連れてこられた東の世界に、彼女の父の丸天井の中に赴く、旧都市 - 橋 (*London Bridge*) [994年の最初のテムズ川の橋、1749年までテムズ川を越える唯一の橋、Cityと市区を結んでいる] から遠くないところに、その橋はここで彼女の建物と一緒に窓から見える。

ここで突然、宮廷の天球の音楽と Lady Townley や Lady Heathen の太鼓や Miß Hairbrtain の喧騒 - 華美から遠く離れて、彼女は一つの交友をする機会を持った、その交友は、もしもつと良い時に起こったならば、果てしなく役に立つことができただらう。つまり、*自分自身*を知ること。 - いま、それは遅すぎる！ - 良心の雷ともに導きいれられて、彼女は今突然、*自分自身*の前に現れる。なんとという眺めか！ すべてから西に追放されて、 - その西のために彼女は母のような東の中の多くを追放したのだった - ,そして今自分で、この追放されたものによって追放されて、訪問も名刺もなく。位階なしに、結局、名譽もなく。嘲笑と侮蔑、世界の第一の都市の会話と読書。ますます近く彼女は自分を自分の夫を殺した女として見る。もちろん法的には処刑されることはできないが、しかしその代わりに、*法律の外*で一つの自己処刑の刑を宣告されて。その自己処刑の中では、消すことのできない恥と孤独の中で、前進がなされる。本当に！ *彼の自己の慈悲*からとどめの一刺しを期待することは、*法が神の恩寵*から犯罪者に否定できない形で命令する綱よりもはるかに苦しめるものなのだ。

一方、希望の弱い光が彼女の牢獄の中に差し込んだ。Silbermund氏はなるほど捕らえられ、監禁されたが、彼はまだ生きていた、そして自分の権利を主張することの*抜け道も道も*知っていた。そのような鳥は、ただくちばしの力ですべてのかごから自分を助け出すためにそれ以上何を必要とするだろうか。だからこの二人の絞首台 - 鳩★がその都市の東のあるいは西の端であれ、しかし東あるいは西の端のどこかの片隅で、また再び彼らの巣を建てることのできたということはまだ可能であった。しかしその後すぐに Silbermund氏に裁判がされる、彼は有罪とみなされ、絞首台の刑を宣告される、それは突然、裁判をすることの道の上の [auf dem Weg des Rechts] 大きすぎる一歩だった。人はだから突然、最後の段階にいたのだ。捕獲用の輪 [Fangschlinge] を持った木製の飾りのない表玄関、そこを道が通っているのだが、その玄関はすでに完全に近くにあった。今なお彼女は自分を慰めた、「それは不可能だ - 彼は絞首刑にされることはできない - あまりに愛しい心だった！ 確かに私の亡くなった人は最大の罪をもっていた。常に酔っていた、常に絆創膏を張られていた [bepflastern]、そして常に丸薬を与えられていた [bepillt] ! 彼は私をもっと良く守らなければならなかったらう。愛する財産がそのように道路を走り回るところで盗まないこと

は人間の本性の中にはない、人が剣を持っていれば、従順に刺殺されることが人間の本性の中にないと同様に。それは私の Silbermund の犯罪の全部だった。おお、私の祖国は一つの正義を持っている、しかしまた一つの慈悲を！ おお、確かに慈悲を。これ、これが私が探し求めていたものだ。これは慰めだ、正義、しかしまた慈悲。おお、確かに慈悲！ — 私の Silbermund は生きている、そして生きるだろう。 — この夢でもって彼女は確かに今朝間違っていた、夢見る女にとって恐ろしい出来事が突然起こったとき。それは彼女にとって全身全霊を震撼させる言葉に他ならないものを含んでいた、「いや、お前の Silbermund は生きないだろう、もはや生きることはない。今朝十時の時の鐘で、彼は表玄関の輪の中にお下がりになっていた、お前はしたいならば、まだ彼が揺れているのを見る」。この出来事をわれわれはわれわれの読者に短く単純な散文で語りたい。

★ ドイツのある地域ではカラスはとても美しく、死刑執行人の鳩と呼ばれる。

今朝は、もし彼女がふだんはそれを知らなかったにしても、その婦人が公共新聞から知ることができたように、彼女の愛しい人の処刑のために刑が一時的に停止された。その犯罪自体は、法の微妙さを知らない彼女でさえも容易に似ている、少なくとも似ているように見えるケースを思い出すことができるそのような性質のものである、そのような行為はただ牢獄あるいは移送で罰せられていたので。ここに彼女は彼女の完全に非難されるべきではない希望を基づかせていた、そしてこの希望をただ愛と、その希望がかなえられるのを見たいという願望が周知の魔法の力で確信に高めていた。彼女はだからこの確信を可能な限りすぐに確かめるために、一種の下男（つまりそこのテーブルのところで男の上着の中に潜りこんだもの）を刑場に派遣した。この哀れな奴は自分がどれくらい多くをもたらしただのかを少しも知ることなく、Solbermund 氏は時間的なものを永遠なるものと交換した、バチスト〈ローン、綿布〉製の司法襟★を麻のそれと交換したという報告をもたらしただけでなく、私を忘れないでという紙片をもたらし、その紙片がわれわれは空っぽの薬瓶の隣にあるのを見る。その全紙の印を、人間性が何であるのかを知っている誰もが誤解することはないだろうが、その全紙はまさしく、絞首台の下での Silbermund 氏の白鳥の歌を含んでいる、彼の絞首台 - 演説★★を。これは優しい心にとっては多すぎた。その男は — 処刑はまあ仕方がないことだ、でもそれが愛人だったら！ — 電光石火 Blitz und Schlag eins, 彼女は阿片チンキ Laudanum [鎮痛催眠剤]★★★の2オンスの小瓶に手を伸ばす。それを彼女はおそらく最近の自己認識の最初の荒れた瞬間に処方されたのだ、しかしそれが到着したとき、いくらか強すぎると思ったかもしれない。そして今彼女はそれを最後の一滴まで飲み干す。昼食の時、その毒の作用が姿をあらわし、彼女は椅子と一緒に転倒する、彼女は急いで抱き上げられ、肘

掛椅子に引っ張っていかれ、薬剤師と薬局の一部が呼びにやられる、すべての人が現れる、しかし、Silbermund自身が生きていて、肉体の中で舞踏会のチケットをもってやってきたにしても、彼は彼女を再び呼び戻さなかつただろう、— それは遅すぎた。それが実際に遅すぎると言うことはまた医者からも見てとれる、医者はゆっくりと退き、璣に家の玄関の前で敬意 *honneurs* を表す。これがわれわれが能力に従って具体的に描きたいと思うこの場面の具体的な輪郭である。

★「第一の版画」を見よ。

★★ *Counsellor Silvertongue's last daying speech*。これは本来は、われわれが「第一の版画」で暗示した小作品 *Opusculum* である。そしてその作品から人は本来、故人が実際に Silbermund という名前であったことを知るのである。ちなみに古典的なイギリスではこの演説は、昔の著者たちにおける主人公たちの演説と同じ事情にある、主人公たち自身はそれについて知らなかった。

★★★ われわれの女性読者や男性読者の中でこの阿片チンキがなにであるのか知らない人に、情報のために次のことが役に立つ、それは本来は一種のボヘミアのリキュールであり、それは一滴程度、外面的におそらく内面的にでも経験豊かな医者 の指導の下で用いられて、治癒力のあるものとなることができる。しかし漠然と、ロート Lot [約 16 グラム] の量で飲み込めば、完全に錠剤の形の鉛をオンスの量でピストルから受け取ったのと同じ作用を持つ。それについてのもっと詳しい情報は薬剤師の本や小説の中に、とりわけ、甘く感傷的な小説の中に墓の中での婚約とともに見出される。

彼女は肘掛椅子の上で死につつある、彼女の上に出現した刑事裁判所の表章とともに、足元に毒の瓶と絞首台をもって。そうして最後に、Squanderfield は仕返しをされた [gerochen]。一人の老いた家政婦、おそらくすでに二十年前に自然によって暗澹たる素質であったのだろうが、その家政婦がその処刑された女に子供を差し出している、その子供のがらがらおもちゃが別の種類の肘掛椅子からぶら下がっているのをわれわれは見た。この哀れな姿は小さくなる病的な腕を首に巻き付けている、そして人間の姿の青ざめた頬にキスをしている。その人間は彼の母と呼ばれるのだが、今永遠に逃れ去った感情のこの瞬間におけるよりももっと多く母であったことはなかったかもしれない。その哀れな生き物は頬にすでに Squanderfield の血をもった封土授与の印章を身に着けている。その小さな頭がとてもきゃしゃで軽く発育したにしても、明瞭に見られるように、すでに今、鋼鉄 - 補強をもった編み上げ靴が必要である、やせ衰えた脚が紙のような重みで曲がらないように。これ以上に感動的に考えられることができないこの場面において、その老いた父はまったく静かなままだ、まるで娘全体が指輪を除いて全治したかのように。それゆえに彼はなによりもまず指輪を手ずから救い出している。その男の哲学は実際に信じられないほど遠くに及ぶ。われわれの読者がこの物に動じない人 [Stoiker] の左側を一枚の紙で覆い、その人の直線的 [geradelinich] な縁が右の頬のところと右手の親指の一番先のところをなでるようにする苦労をすれば、読者はこの

男の行為に関して、小さな当惑を持つだろう、彼が新しいパイプを実際に詰めているのか、あるいは一つパイプを詰めるために、古いパイプの中をからにしているのか、すぐには言うことができなくて。彼は実際に天から彼の第二の *secunda* 懲罰を、彼が第一 *primam* の懲罰を受け取ったように、ある平静さで受け取る、まるでそれが一つの送り状であるかのように。

— その立像全体の中になんという花崗岩のような不動性があることか！ 伐採用斧にも抵抗するように見える幅の広い慎重な額から、二つの株式市場 - 舗装 - 杭打ちハンマー [Börsen-Pflaster-Rammen 硬直した顔] まで。その杭打ちハンマーはその堅固さでもってその死の肘掛椅子の組み立てられた二重のはきもの [Fußwerk] を恥じ入らせる。そしてそのすべては彼の唯一の子供の死体の隣で、その子の冷たい手を彼自身の手の中に持って、その手をもう一度握りしめるためにではなく、その手が例えば遺体を世話する女 [Todenfrau] に指輪をこっそり手渡すことを妨げるために。— それを象も、むく犬もできない、それをただ無限の力を持った吝嗇だけができる。これらの絵の解説者たちもまたホガースがここで教えていることを頻繁に彼の人生において本当であるとみなした、すなわち、ある種の集める精神 [Sammelgeist]、一種の欲張り屋 [Hamster] - 本能は、毎年、これらの人々が故意に小さく見せながら言うように、ちょっとした金額 *runde Summchen* を残しておく本能は、徐々に人間の心を高貴な癒傷組織 [Kallus] で覆う、その癒傷組織はすべての道徳的な暖めることから守られている、柔らかい白鳥の羽毛が胸を風邪を引くことと守るのと同じくらい確実に。それどころかその癒傷組織はその所有者にうらやむべき巧みさを与えるのだ、スウィフトが表現するように、彼の隣の人のすべての災難をキリスト教的な平静さでもって耐えるために。ちなみに人はとりわけ鼻かぜを持つとき、心を温める安楽ともに、この人間が、あるいはそれがあるところのものが、どんなに慎重に彼のホラティウスのな三重に武装された青銅 胸 *aes triplex circa pectus* を我が家のような腹の周囲の三重の布 *panno triplici circa stomachum* と一つにするすべを知っていたことに気づく。彼は三つの上着を身に着けている、というのは、あの幸福な時代に上着とチョッキはまだ同じ位置にあった [al pari : gleich gegen gleich, イタリア語の pari al pari から。市場価格と名目価格の一致]、時おりまたストック [Stocks 絹のスカーフ] もまた。人は見る、その男は何も投げ捨てない、お金も人間愛も、動物的な温かさも。すべてから可能な限り多くが貯金される。冷たい手の下の鎖は娘の腕輪ではなく、その老人が家の中で身につけている金の役職金鎖 [Amtskette] である。おそらく、売り台 [Comtoir] の中で上着を、ある原因のゆえに、一つだけにさせないために。

老婆の後ろに、おそらく正装の黒の服を着て、一人の男がふくらはぎ - 台座の上に立っているが、そのふくらはぎ台座はとても頑丈なので、それはまるで、自然が彼を肉屋に決定したかのように見える、そしてその肉屋の形成の際にすぐに、その男が引っ張っていかねば

ならないだろう雄牛 - 切断された四分の一 [Viertel] を当てにしたかのように見える。しかし、自然は今度は間違っていた。その男はただ薬剤師になった、徒歩で実務にたずさわり、また治療し★、そして最後に四つの切断された四分の一 [全体] を他の人々の中を通り引きずり連れ去らした。彼がそのようであることを人は、彼のポケットから突き出ている薬学的な消毒器具 [Lösch-Apparat]、一つの小さな噴霧器、一瓶の Julepp [ばら香水、新鮮なハッカの葉を添えたアルコール飲料と氷と果物の薄片からなる飲み物] で認識する。その献身的な男は建物がすでに灰の中にあつたときにここに来た。左手で彼は、かつてテロリスト *Terrorist* のガスナー [Johann Josef Gaßner 1727-1778, レーゲンスブルクのカトリックの僧で、悪魔払いの祈祷師、奇蹟治療者] が悪い敵にとびかかるのが常であつたつかみ方で、一つのかなり自由にぶら下がっている盛装制服 [Staats-Liverei] を襟のところでつかんだ、おそらく彼女から別の悪魔を追い払うために。さしあたり当初は *ad interim* 彼女にとりついていた悪魔を。実際にその魔力で追い払うことはかなり進んだように見える。というのは、私がその魔法をかけられた人の顔を正しく読むならば、それは大きな心の不安とともに不決断を表現しているように見える、彼が上の上着から飛び出るか、あるいは潜り込み、下ですりりと滑り出るかどうか。ちょうど悪魔がガスマンのもつてするように。その物語は以下のように、そのその哀れな魂はわれわれがすでに聞いたように、家の中の召使いのようなものである、おそらく半分のパンで仕える哀れな生き物、しかしそのかわり、誰かが持ってこい *apporte* と叫ぶとすぐに、正装 - 制服が許すかぎり速く走ってくる以外に何もすることを持っていない。この無邪気な家畜はいま不幸にも、いま隣り合つて床にちらばっている毒を持ってきた、絞首台演説と阿片チンキを。「見よ、絞首台の鳥 [カラス] よ、お前は何をしたのか」と薬剤師はその召使を怒鳴りつける、彼が右手で毒を指し示しながら、「誰がそれをお前に命令したのか。悪党のお前は、またすぐに絞首刑にされるに値しないか」。その際に彼は粗く左手で彼をゆすぶる、右手がすぐにするであろうことについて疑いを残さない視線とともに。そして外で橋の上で決して罪があると感じなかつたらうその哀れな罪人は、テロリズム *Terrorismus* の爪の中で、尊敬の念から、自分は実際に絞首台に値したのだと思ひ始める。それ故に嘆きと、実際に *last dying speech* の何かを試みているように見える口で。 - 人が地上の主人や天の皇太子に信じさせることができないこと、もし人がふさわしく彼を襟のところでつかみ、彼の考えの在庫品を目的にかなつたように揺さぶり分けるすべを知っているならば！ 彼は行い、考えそしてすぐにひとが欲するすべてのものを感じる。自然の何と賢明な処置 [Einrichtung] であろうか。数百万のそのような皇太子を、彼らを持ちたいところに案内し導くことはどのように可能だろうか。しかしながら最後に彼らの精神は、彼らの肉体が空気の圧力を感じないのと同様に、襟首をつかむ拳を、彼らのいつもの力をほとんど

感じない。そうして人間は一種の歓喜の感情とともに彼の名前をリンネのアドレスカレンダー [リンネの「動物学体系」のこと、生物全体を科学的にラテン語による属と種の名で規定した] の中に見る、そして猿を自分のほのか下に見る。彼の種の大部分がある別のひょっとしたらもっと理性的な体系に従って**獵犬**や**粉屋**の**ロバ**のはるか下にいることを考えることなく。

★ ロンドンでは頻繁に診療する薬剤師、あるいは人がそう言いたいならば、同時に薬を調剤する医師が見出される。

両人物の間の対比はすばらしい。その薬剤師の顔つき、雄牛の力と決意に満ちた真の堅牢な**鉱石 Erz**。召使の顔つき、みすばらしい**ミルクスープ**。頭全体は、悪く適合されていいないにもかかわらず、**交際嫌い [Drehschäfchen 回転羊]** のそれである。ぶるぶる震えている、何に対しても**能動的**でなく、すべてに対して**受動的**に決意した。おお、その哀れな奴から何が生まれようとも、彼はたしかに**人類の代弁者 Orateur du genre humain** [そのように**Anacharsis Cloots 1755-94**、プロイセンの貴族に生まれたフランスの革命家、は自分呼んだ] にならない。一人の男の上着はほとんど**チョッキ**のようで、ひもで結んでしめられている、それは路地を通る**保健衛生検査**の**ひざの検査 [Kniespiel 医者が膝を叩く]** にとって妨げにならない。もう一人の人の上着はとても、おお！ とても長すぎる、**[獲物を]** 持ってくる際の一つの正式な締め付け具 **[Sperrwerk]**、とりわけ倉庫袋が両側でよく占められているときには、一つの本当の**スペイン風コート**。さらに最初の人衣服は堅固に **firm** ぴったりと合っている、一つの個所も空っぽではない、すべては詰め物をされている。もう一ポンドの**プディング**で縫い目は裂ける、あるいはボタンが飛ぶだろう。もう一人の人の衣服、おお！ 汝、親愛なる時よ、その服はほとんど半分も住まれていない、真空のひとつの**プラス**をもって、薬剤師と一緒に**小ポンドのプディング**を受け取るために。そこでは確かにボタンは飛ばない、しかしボタンたちはその立派なボタン穴から**転がり落ちる**だろう、締め付け具 **[Sperrwerk]** が左右対称的にまっすぐに **[gerade]** ボタンを掛けられているにしても。そして**第十番目**のボタンは実際に**第九番目**のボタン穴に掛かっていて、**第十一番目**のボタンは**第十番目**のボタン穴に掛かっている。その発明は新しいものではない、それはしかしその哀れな奴の中における**静力学**のためのいくらかの才能をこっそりと教えているだろう、もし彼が自分でその考えに至ったならば。というのは、今、上着のボタン側はボタン穴側にまっすぐに接続するばかりか、ボタン側は**ボタン穴側**にぶら下がっている、ボタン側はボタン穴側によって支えられている。それが一人の人間にとって自然であるように、ボタン側のポケットが常に特に詰め込まれる **[beladen]** と仮定すれば、例えば、パンを持ってくる際に、重

さ [Überwucht] がただ6ポンドの量であるならば、そのボタンはほとんど自分の穴から抜け出すことはできない。壁の釘が、それで服が釘にかかっている輪から、その輪が広いものであれ、抜け落ちないように。薬剤師のがっしりした足の骨組みをわれわれはすでに観察した、その召使の脚と、その脚が従事している無力さの永遠の湾曲 [Knick] は、ほとんど足の骨組みの名に値しない、そしてそもそも話す価値がない。だから上着についていくつかの言葉を。この正装制服と日常制服はそもそもこの家族におけるとても古い召使 - 封土 [封主が封臣に与える] である。それは常に、投資の変化ごとに生じた脱皮の後で、再び封建領主の所有となる。時間のこの処理の際に明らかに何かを獲得されなければならないので、ひとはすぐ初めに衣服に布を節約しなかった、そしてすべてを強く完全に使用した [nehmen]、それは5フィート5ツォルから、彼がいずれにせよお金のために自分の姿を見せさせることができるほどの大きさまでのどの人間にも適切に、ある時は身に着けられ、ある時は引きずられることができるのだ。それがあの人には他の人ほど良くぴったりしていないということはそうである、しかしそれはある程度は人間と同様に**職種**のすべての衣服についても妥当する。

その部屋とそれの家具調度の解明に向かう前に、部屋のドアの中のその医者に行くか、行を与えなければならない、それらが彼にほとんど役に立たないにしても。この人物は、描写されるよりももっと良く感じられる滑稽なものをもっている。医師のこの立ち去る様子を微笑みなしに見た人は少ないだろう。しかしその時その微笑みがどの点にあるのかを彼らは自分で述べることができないうだろう。それは本当だ、幅の広い束ねて結った髪 [Knoten] - かつら、上着の細長い切り口の中の剣の柄、重心のいくらか下に金のボタンがはめ込まれた籐の杖 [das spanische Rohr]、それは瞑想とともに優しく口の方に運ばれているのだが、それらは何か荘重なものを持っている、とりわけここでは**都合の悪い時に**。しかしそれがすべてか。ほとんどそうではないだろう。私には思われるのだが、その男の眺めは明らかに頼みごとを**はねつけられる** [冷遇される Übelangekommen] あるいは**いわゆるひどい扱いを受けた** [übel angelaufen] の考えを呼び起こす、まったく極度に不愉快な、しかし特にすべての重々しさの印象にとって致命的な状況の考えを。遅れてくること、罪なく遅れてくること自体はだれにも特に似合わない、それは、定刻通りであるという顔つきで起こるならば、滑稽にすることができる。その上さらに、彼が救おうとした死んでしまった人間と向かい合っている医者は決して奇妙には見えない。というのは、人が一面では、医学は人間を不死にする術ではまったくなく、そのような術であることはまったくできないし、あるべきではないということをよく知っていて、信じることを好むにもかかわらず、しかし別の側からは [von der andern]、ある人たちが、そのような集会 [Zusammenkunft] の際に、助けることができ

ないということは他の人々もまた理解している一つの術だと考えたにしても、彼らは悪く取られることはできない。そのような比較を避けるために、あるいはそれを少なくとも短縮するために、そのドクター氏は静かに忍び足で去る、そして喪に服している人たちの嘆きを、われわれの知の貧弱さと無駄な出費についての嘆きを、薬剤師のそれほど繊細ではない聴覚にゆだねるのである。

その老人の部屋全体をホガースは卑劣な吝嗇漢の意味深長な特徴と、けちけちしたことの後に続く悪趣味で埋めた、掛けた。最初に眼に入るのは正午の食事 [Mittagsmahl] のあるクロスを掛けられたテーブルである。ここでこの言葉を正午の悪 [Mal de midi] によって翻訳したフランス人は完全に間違っていないだろう。料理の中にはヒステリー的な伯爵夫人のためにただ一つの温かいものが見られる、すなわち塩の上でバランスをとられた軟らかく煮られた卵。他のものは、死んだ肩ロース肉（というのは、ここではまた生きているそれもあるから）、それは今日では最後に薄切りにされることになっている。そして半分の豚の頭、それは生きているときには食べもの心配に苦しんだ、そして死後は、おそらく空気を食べることによって食糧貯蔵室と食卓の間をあちこちと頻繁に運ばれることで苦しんだ。口は、見られるように、ただ乏しく世話されているだけだ、しかし眼や空想はそれだけ一層豊かに世話されている。それにはいくつかの重い、不格好なほど美しい銀の食器類と特にテムズ川への眺望が属している。その眺望のいくらかをその気前の良い [liberal] 男は今日実際に登場させた、彼は今日、両方の窓の扉を開けた。一つの扉で十分であっただろうに。客のための皿は本来はまだ見えない、一つの小さな皿を除いて、それはおそらく、スープと野菜のための家族 - Meridometer[★]だろう。取っ手の付いた大きな銀の豪華容器の中に何かがあるか言うことは難しい。それは、人が見るできないところでは、当然である。というのは、人が中を見ることができるとは限り、それは明らかに空っぽである。それがありそうであるように、その狡猾な主人が、飲み物に欠けているものを器によって良くしたならば、それは気の抜けたビールであるかもしれない、そして今なおおいしい飲み物だろう。床のところの甕の中にあるものはたしかにテムズ川からの正直な純粋なミドルセックスの45年代もの[純粋なテムズ川の水] だろう。 - これはだから、死が美しい客を追い抜く [übereilen] 食事である。もちろんその際に毒はすべての罪をもっていた。しかしながら本当に、例えば第五の版画における警察従者のそのような食欲と消化力の場合にはそのような昼食はただ数日間継続されると、必然的に似たような悲しげな結果を持たねばならないだろう。その生きている肩ロース肉、犬を見よ。哀れな奴！ 人が幸運にも家の娘の死亡日を催すのでなければ、彼は確かに自分の死亡日を催しただろう。彼はつかむが、分量測定器に打ち当たることはない。とても立派な [brav] ! 確かにわれわれの読者の中でその忠実な動物に彼の獲

物をもっての幸福な退却を望まなかった人は誰もいない。しかしそのような退却がどのように可能であるのか、それはわからない。そして獲物を敵の戦線の前で食べることは考えられない。右の翼部を迂回することは完全に不可能である、そこではその老人自身が指揮を執っている、彼は同じ番犬的な鋭くされた用心深さでもってダイヤモンドの指輪や古いハムベーコンを守るすべを知っている。だから一番賢明なことは、とにかくいくらか暴動が支配している左の翼部を迂回すること、あるいは薬剤師の脚の間を通り抜け、老いた医師と側面の前に来ることである、その側面の秘密厳守を彼は確信できる。そしてその側面から優先権を手に入れることである。われわれは最善のことを希望したい。

★ *μερίς portio* と *μέτρον mensura* から、分量測定器 Portionemesser。

ガラス彩色画のある豪華なアーチ状の窓 (bow-window) の中に家の警察は明らかにそのほこりとクモの巢用のほうきでもっていくつかの醜い換気装置を打ちつけた。それによって老人は窓全体が換気装置にならないように、あの地域を将来すべての掃除から免除することのきっかけを与えられた。この平和をオニグモは巢をそこで安全に張るために利用する★。ここで C hurchill の詩句を思い出さないことは不可能である、彼がスコットランドを、もちろん南イギリスの、反スコットランド的な嘲笑精神とともに、約束された国 [gelobtes Land] として描写するとき。

Where half starv'd spiders feed on half starv'd flies,

半分飢え死にしそうなクモが半分飢え死にしたハエを食べているところ

というのは、本当のところ、市参事会員が彼の犬によりももっとよくハエに餌をやらなければ、ちょうど言及された十字 - 女騎士はここで彼女のスコットランド的な修道会士 [Ordenschwester] の場合の中にいるかもしれない。ここでは犬の骸骨が豚の乾いた標本に飛びかかっている。 - その男は移ろいやすいものを繕うことを自分の仕方で処理している。窓ガラスに彼は継ぎを当てさせない、ふだんは悪くは見えない甘いオブラート [Zuckerpapier 砂糖紙] によってさえも、その代わりに豪華椅子の背もたれに継ぎを当てさせる、奇妙に見えない仕方で。読者は倒れた椅子がすでに以前に似たような転倒をしたこと、そしてその際に背もたれの両方の主要支えを失ったに違いないことに気づくだろう。この背もたれは膠で貼り付けられなかった。しかし、そうではなく少なくとも一つの側で頑丈なこけら板があてがわれている、それはまた実際にずっと堅牢である。外見に関しては、人が座るならば、その包帯は座っている人によってはまったく見られない、他の人によってもただ

苦勞して見られるということは確かである。唯一憂慮すべきことは継ぎ当ての際のシンメトリーの不足である。それはほとんど、右の側のこけら板が左の側の壊れた部分を一緒に覆うように見える、というのは、そのとき部分はいくらか安定していないように [ausgewichen] 見えるからだ、それらはもう吻合 [anastomosieren 神経血管の叢形成に導く、血管あるいはリンパ管の交差結合] しない。ひょっとしたらこの壊れた部分は新しいものなのだ、そして椅子が再び立っているならば、そのようなことはすぐにおのずと起こる。 - たばこのパイプはその部屋のいくつかの個所に見られる。一つは窓際に、三つは商店 [Handlung] 原稿を含んでいる小さな筆筒の中に。すべてを節約する男はとても慎重にイギリスのどの日雇い労務者も使用した後で投げ捨てるものを保存している。彼はお金を彼が要求するわずかな飲酒 [Trunk] の後でふたたび無駄に受けとることになるので。しかし私が間違っていないければ、水を飲む人はなんの成果も得ずに引き揚げるので、ここではその事柄はまだ許される。

- * 十字によって分割されているばかりでなく、更に一つの十字を含んでいる紋章がそのアーチの中に掛かっているということ - 十字を紋章の中に掲げているクモが自分のアーチの中に掛かっているように - それは確かに意味を持っているが、私はそれをあえて解説しようとしな。しかしひょっとしたら、すでに次のことで十分だろう、まさにその動物が家の主人と同じ種類の紋章を掲げているということが。その動物 [das] は自分の愛に満ちた私心のなさのゆえに、そして彼と取引をするもっと弱い隣の生き物に対する無邪気な振る舞いのゆえに、ことわざとなった。

図書館の辞書参考書コーナーは完全に原稿からなっている、日記 (Day book), 会計帳簿 (Ledger), 受取帳 (Rect Book) そして最後に戸棚のドアに一番近いところにすべてのもの★の中で一番厚いもの、利子の利子の上の資本 (Compound interest 複利) というタイトルのもの。四つ折り判の作品は最近の郵便の往復書簡であるように見える。

- * この列は確かにとても許すことのできる誤りの中でわれわれの模写の中では失われてしまった。オリジナルではこの注目すべき原稿は他の原稿よりほとんど半分くらいもっと厚い。この機会に私はこの版画 [Blatt] の上のいくつかの別の小さな誤植 [Errata] を知らせたい。オリジナルではテーブルクロスはいくつかのまったく顕著な斑点を持っている、そしてその部屋の天井は漆喰職人によって、おおよそその椅子の背もたれが指物師によって修理されたのと同じように修理されている。おそらく両者は同じ芸術家に由来している、あるいは恐らく結局は小さな *Ipse fecit* 彼はそれを自分で作ったである。

本棚の他の部門の中に、パイプの隣に、一つの手作りのたばこ袋がある、それは四つ折り判の紙から巻かれている。そしておそらくインク瓶がある。ひょっとしたらまたこの瓶は胃のための *Ipse fecit* 彼はそれを自分で作ったの何かを含んでいる、日曜の朝、泉の水の中で取るために。この戸棚のまったく装飾のない味気無さは少なくとも切妻 - 端から、一つの古

い逆さまにされた鐘の形のポンチ酒皿 [Punsch-Campane] によって素晴らしく対策が講じられている。時が不注意の助けですでに、見られるように、二番目の匙の刻み目をその縁に削って作ったので、時はその上で名誉ある静止の中に置かれているように見える。

壁の装飾は豪華さの点で最後の二つの政府のもとでの Squanderfield のそれに劣っている、その代わりにまったく真にイギリス的な仕事である。釘板 Nagelbrett に市参事会員の職務服 (gown) と帽子がぶら下がっている。そのとなりに一つのイギリス的な時計、恐らくイギリスの木製の歯車装置のあるもの。鐘の型から推測すれば、その時計の打鐘装置と目覚まし装置 [Wecker-Werk] はその家のすべての階の仕事を調整している。時計の針は 11 時 5 分を指している。この昼食の時間はこの家政の中の最悪の施設 [Anstalt] ではない、けちな人からでさえまた何か学ばれるのだ。朝の 11 時はすでに 4 時に金利 - 帳簿のもとで目を覚まししている男にとって遅い。その都市の西の端では、ここ東ではすでに 5 時である時に、昼食がとられる。これはだから都市ロンドンに時間における 6 時間の長さの道徳的な延長を、あるいは弧における 90 度の延長を与える。その延長がさらに増加するならば、それに対する最善の希望を人は持っているのだが、そしてスペインの王がもう一度、太陽が彼の国では決して沈まないことを自慢するならば、どの Cockney* も悠然として答えるだろう、彼の生まれ故郷の都市もまた太陽が、それがどこにしようとも、常に昼食の時の家族を見出すほど大きいと。

* そのようにロンドンでは都会人たち、とりわけ決して町から出なかった旧市街の人たちをからかって呼ぶのが常である。その言葉の語源は知られていない。一つの冗談で考えられた語源は次のようだ、ついに一度だけ田舎に迷い込んでしまった Cockney は彼の帰郷の際に彼の母に驚きとともに語った、彼はおんどりがいなく [wiehern] のを聞いたと (he had heard a cock neigh)。

特許状の形の糊で貼り付けられた年鑑以外のほかの装飾は絵画描写 [Schilderei] から成っている。オリジナルは、見られるように、イタリア派のものではない、南ヨーロッパで、澄んだ空の下で、火山性の土地の上で生まれたものではない、そうではなく、われわれの地球の北西の片隅で、堆積した泥炭土の上でいくらか重い霧の空気の中で生まれたもの。その中で一番大きなものは - 焼き串にささった牡羊もも肉 [Hammelskeule]、キャベツ、ジャガイモ、カブ、玉ねぎなどの、一話すためにと人は表すことはできないが一、ほとんどかみつくために適切に表現された肖像画を含んでいる。すべては食欲をそそるように仕上げられているが、その食欲をそそることにテーブルの上の豚の頭の裸の自然は決して達しない。芸術はそれができるのだ！ そのほかにここでは、油の粘着性が欠けている家畜小屋ランプが見える。そしてニシンの小さな樽が見える。その樽には挟み込む [einstecken] ように刺

激する食器用ふきんとにおい以外になにも欠けていない、もしそれらが生きてるように、滴り落ちるように見えなければ。

この生のない自然のほとんど四分の一全体を所有者は一つの生きているテニールス [David Teniers 1610-1690 フランドルの風俗画家] で覆った。そしてそれによってあの台所天国にいわば一人の住民を与えたのだ。このオランダのラファエロの本当の名画。それはそこに年鑑の上に掛かっている、ひょっとしたら朝の祝福の代わりに道徳的な感情を強化するために。それは結局すべての絵画の目的である、そしてウルビーノのテニールス、ラファエロのすべての努力の目的であった。この目的がいくらか当て損なわれているにしても、少なくとも朝のこの作品において人が道徳的な感情をまだ持っているかどうかは試みられる。それは一つの大きな空っぽの飲用容器と一つのもっと広いいくらかあふれそうな容器を表している、それらはおそらく中身 [contenta] を交換したのだろう。その作品はテニールス全体ではない。少なくともたくさんの顔はすべての側から見えるので。一つの全体から何かが切断されたのか、あるいは他のものの破壊の際に残ったのか。これは私には最高にありそうに思える。オランダの飲み物のためのそのような単純なる過する過程だけを表現することをオランダ人でさえも道徳的な感情のゆえにほとんど企てないだろう。それが救われた部分であるならば、全体の破壊の際に知られている仕方 [皇帝 Konrad 三世は、1140 年に Weinberg の占領の際に、壁に小便をするすべての市民を殺すことを誓った。にもかかわらず男たちは妻たちの策略によって救われた] に反して、壁を見ている部分だけが残らなければならなかったということは奇妙である。部屋のドアの上方に第三の絵画が掛かっている、また沼沢地派 [Sumpf-Schule] からの。この素晴らしい絵は一つ以上の解説に耐えられる。ある男が別の男の鼻のいぼをパイプで焼いている、そのようなことはうまく行くのだろう、あるいはホガースはシェークスピアにおける Bardolph の鼻 [「ヘンリー四世」、Falstaff が Bardolph を「燃えているランプの騎士」と呼ぶ] を考えたのか、その鼻は闇の中の石炭のように輝いた。その男は今自分のパイプをそれでただ元気づけようとしている。

私が思い出させることなく読者は気づいただろう、ホガースはこれらの版画の上の壁の装飾の中であるときはイタリア人の神聖な殺人の物語と繊細な猥褻さについて、あるときはオランダ人の平和な卑猥 [不潔 Cochonnerien] についてからかっている。彼はだから、世界のどの男も同じ事情であるように、自分をすべてのひとよりももっと良いとみなしていた。とてもりっぱだ [brav]。一つの砂粒もそのような信仰なしには移動させられないだろう。そして山を動かすことは考えられない。だから天の名において常にすぐに信じた [frisch zugeglaut]。この方法で時間と人類の貯金箱が一番良い状態であるのだ。

私はもう一度昼食の食卓のとても素晴らしい展示料理に戻りたい、テムズ川の眺望である。

そこに見える家の列は橋の上の有名な、そして最後に評判の悪い建物である、その橋は 915 フィートの長さ、72 フィートの幅である。それは 1750 年以前に両側が、26 フィートの奥行の家々で占められた。そうしてその間に 20 フィートの幅の道路が残った。これらの建物は 1746 年ころとても老朽化したので、上の階の住民たちは次の嵐の際に溺れ死ぬという奇妙な危険を冒した。そして船は同様にいままで聞かれたことのない危険を冒した、船の甲板の上でれんがや屋根瓦によって殴り殺されるという危険を。これらの家々の素晴らしいものへの傾向をホガースは不明瞭には表現しなかった。彼はこれを 1745 年にした、そして続く年月に、議会によってそれらの家々を取り壊すことが決定された。決定されたと私は言ったが、それらは実際には 1756 年に取り壊された。世界ではそのように進むのである。しかしながら、議会はこれらの家々での仕事の際に、ホガースの現在の作品の仕事の時よりもはるかに幸運だった。それらの家々は最後には除去された、しかしわれわれの誠実な男は当世風の結婚を廃止 [abstellen] しようとした、しかしイギリスからの最新の手紙によれば当世風の結婚はいまも持続しているのである。

ニコルズ氏の報告によればホガースはまた幸福な結婚もスケッチした、とりわけすでに色彩で一時的に実行した。これらの絵 [Blatt] はいま Garrick 夫人 [Eva Maria Violetti 1724-1822 ウィーン市民の娘、1746 年に Haymarket のダンサーとして、ロンドンにきた。Garrick は 1749 年に彼女と結婚した] の所有にあるそうだ。彼はしかし、その後長く生きてにもかかわらず、それを公表しなかった。彼に資料 [datis] が欠けていたのか。彼の家の中では確かに欠けてはいなかった、というのは、彼はなるほど子供はいなかったがその他の点では幸せな結婚生活をしていた。それは私にはその男の天才全体から説明のつくことである。おそらく彼の友人たちは彼に、彼が彼の偉大な同郷人 Milton と同じような状況にあったと十分早い時期に理解させた、すなわち、ミルトンは失われた楽園の中にいたが、再び見出された楽園の中にはいなかった [ミルトンの初期の苦境のこと]。

1740 年の *daily advertiser* の中の広告によればホガースはオリジナル絵画を競売に掛けさせた、それらは Uxbridge の Lane zu Hellington 氏によって 150 ギニーで購入された。額縁だけで芸術家には 24 ギニーかかったそうであるにもかかわらず。1792 年三月に私が *European Magazine* 1792 年 4 月号 317 頁から見るように、それは 910 ギニーで同様にオークションで購入された。誰によってかは言われていない。最後から二番目の競売の付け値を有名な John Boydell [1719-1804 イギリスのエッチング工] が 900 ギニーでした。最後にそれは、私がいくつかの新聞、雑誌から読んだニュース [Frankfurter Ristrett 1797 年 34 号] によれば、1797 年の初めに Angerstein [John Julius Angerstein 1735-1833, ロシア系で、15 歳でロンドンにきた、芸術収集家で、保険会社 Lloyd の創設者。彼のコレクションはロンドン

の National Gallery の所有になった] という名の銀行家によって 1,000 ギニーで買われた。オリジナル銅版画は芸術家の未亡人のもとで、彼女から私は 1775 年に私の版画を買ったのだが、1 ギニー 11.5 シリングだった、だからルイドルを 4 ライチスターレルと計算しておおよそ 9.5 ターレルだった。

G.C. リヒテンベルクの高ガース銅版画の詳細な解説

第五分冊 1

ゲッティンゲン, Joh. Christ. Dieterich による出版, 1799 年

出版者の前もっての注意の喚起 [Vorerinnerung]

いままでのようにわれわれの忘れがたいリヒテンベルクがすべての彼の類い稀な精神を知る人や崇拜者に、彼の高ガースの銅版画解説の新しい巻が現れるたびに、いつでも新たに与えた喜びを共有する代わりに、私はいま友人の義務の最も悲しい義務を果たさなければならぬ、そして私の亡くなった友人の遺作を出版しなければならない。われわれのリヒテンベルクは 1799 年 2 月 24 日に死んだ。世界が彼に関して失ったものを世界自身が知るだろう。しかし世界はそれをもっと良く知るだろう、そして彼のはるかにもっと多くを失ったことになるだろう、彼の読者の誰もが、彼の友人たちが彼を知っていたように、彼を知ったならば。そんなに多くの作為のない、華美でない、心からの善意、そんなに稀な才能と知識のもとでのそんなに多くの誠実な人間性は、学者たちが言うように、学術の世界でもまれな現象であるようだ。しかし私は三十年前から [1771 年 7 月 20 日にリヒテンベルクの日記にディーテリヒについての最初の記述] 離れることなく私と結びついていた友人の思い出にただ涙でもって敬意を表すことができるだけだ。芸術理解のある彼の賛辞を述べる人たちは異なっているかもしれないが。

この高ガースの銅版画の第五分冊を故リヒテンベルクはほとんど完全に済ませた、解説の最後の全紙 [16 ページ。編集者によって付け加えられた部分。第六の版画の途中から] を彼と私の一人の友人が印刷するために助けた。

第六分冊のための版画 [「勤勉と怠惰」の第七から第十二までの版画] はリヒテンベルクの監督のもとでリーペンハウゼン氏によってすでに完成されている。私は、読者がまたそれへの解説をリヒテンベルクの遺稿から受け取るように配慮するだろう。[1800 年に残りの六枚の版画の解説をもたらす第六分冊が現れた。1792 年のポケットカレンダー記事の再印刷。

ディーテリヒの企画でさらに現れた分冊 7-12 (1801-16) はカレンダーのさまざまな年次の中の残っていたものの再録を含んでいる]。

この機会に私はリヒテンベルク著作集の完全版の予告を繰り返す。その中の印刷されていない部分はいずれにしても資格のない収集家 [海賊版業者] の役に立つことはできない。

ゲッティンゲン 1799年3月

Joh. Chr. Dieterich

Industry and Idleness

勤勉と怠惰

第一の版画

ここで選ばれた表題、*勤勉と怠惰*が英語の *Industry and Idleness* を完全には表現していないにもかかわらず、*Industry and Idleness* はひょっとしたら熱心な仕事ぶりと無為によってもっと正しく再現されるだろうが、われわれはしかしそれらの言葉を選んだ。それらがまさに、これらの版画 [Blatt] が娯楽のためばかりかまた特に教訓のためにも捧げられているあの人間階級にもっとわかりやすいものであるから、そしてその階級に最短の距離で芸術家の意図を明らかにするであろうから。われわれの読者の他の部分、まさに反対にこのすべてを教訓のためでなく、娯楽のために見る読者は、より高い理解のもとで一つの完全に適合しているわけではない表題のより妥当な解釈をへり下ってするかもしれない、前者の人間階級 [娯楽ばかりか教訓のために読む人間] が自分を高めてよりふさわしい表題の理解をあえてするよりもっと容易に。その表題の理解について前者の読者には言語がまだ完全に良く知られているわけではない。— それは両派にとってだから正当であろう。*Industry* という言葉をそのように知っているならば、人はまた *Chevalier d'Industrie* [幸運を当てにする無責任な人] をひょっとしたらそれ以上に知っている、そしてわれわれのところではとても普通の人間も、*仕事熱心* [emsig] でない悪党は確かに惨めな悪党であるということを知っている。

Sir Horace Walpole (しばらく前に亡くなった Oxford 卿) はわれわれが第一分冊の前書きの中で知らせた本の中でこれらの版画 [Blatt] について判断している、それらは作品の仕上げにおけるよりもその意図の中にもっと多くの賞賛に値するものを持っている。これは確かに本当である。いま作品の仕上げのもとに文学的な仕上げと機械的な仕上げが試みられなければならない。両者の点でこれらの版画はわれわれの芸術家のたいていの作品に劣っている。

る。機械的な仕上げのゆえにホガースは、ニコルズが引用しているように、よく謝罪した。それはそれらをもっと低い価格で、それらの版画が主として規定されていたあの人間階級の手に入れさせるためにそうなったのだ、つまり職人や労働者 [Fabrikanten, 19 世紀にも労働者の呼称として使用された] に。本当に一枚の版画はただ 1 シリング (7Gr. グロッシェン [gute Groschen の省略]) である、最後の二枚の版画はたくさんの人物を含んでいるにもかかわらず。彼の *Paulus vor dem Felix*, 彼が自分で言っているようにレンブラントの手法による作品 (本来は「Paulus, Felix とレンブラント」への風刺文書, だから自分自身への風刺), 仕上げの良くない版画は、一枚が 5 シリング [deren fünf] の値段である。[ホガースは 1748 年にロンドンの Lincoln's Inn の注文で大型の歴史画「Felix の前の Paulus」を描いた、それは使徒 Paulus が Felix という名前のローマの総督の良心に訴えるところを描いている。ホガースはこの絵の銅版画を彫った、しかし自嘲の意味で道化芝居に戯画化し、昔の巨匠の彼によって軽蔑された手法でその版画を描き、彫った] 文学的な仕上げに関しては、もちろんここに旅回りの女優たち、フィンチリー *Finchley* への行進、議会選挙の場面、バルトロマイオス市場 *Bartholomäus-Market**の著者がいないのが気づかれる。しかしこの並外れた男の尋常ならざる天才がここでも見誤られることはない。そしてこれらの版画はいまなお、この分野において他の人たちから現れ出たすべてのものをはるかに凌駕している。その天才は彼の誤りの中にも見出される。天才の不足が最強の努力の中にも、ある時は顔の中に、ある時は苦勞して集められたものの中に、ある時は誇張の中に見られるように。そもそもホガースがここに持っているすべてのものは良い。人があちらこちらでそれをもっと多く望まなかったならば。硬貨の純度 [Korn] は純粋であるが、ただ総重量 [Schrot] が欠けている、時おりあちこちでそう思われるように。しかしホガースはこの側面でも再び獲得する、彼がより安価に描こうとするように、彼はまたより安価に話さねばならないということ、そしてだから彼が一種の低地ドイツ語 [Platt] を話さねばならないと人が気付くならば。その低地ドイツ語はより高い階級に上から下に理解可能であるように見える、より深い世界知識のより高い言語が本来はここで話しかけられている別の部分にとってその深さの中で理解可能であるよりもっと理解可能であるように見える。われわれが太陽を自分の後ろに持つとき、あるいはわれわれ自身の光を持つとき、太陽自身がその公正な輝きでもって照らす人よりも、あるいはわれわれが作家的なしばしば党派的な慈悲とともにその眼の中を照らす人よりも、物体をもっとよく見るように。

* ここに最後に名を挙げられた三つの表現が次の分冊の内容を決定するだろう。

勤勉と怠惰の結果をある偉大な国民のととも重要な部分に感覚的に知覚できるようにする

ために、芸術家は二人の同僚の生を選んだ、彼らは二人とも Spitalfields の織物工場で働いている、そこではすべての種類の職工たちが一緒に住んでいる。その場面が Spitalfields にあるということは、右側に織機の上にある錫製の黒ボールジョッキから見て取れる。Spittle とそこに書かれている。それが病院 Spital を表す意図なしに。Spital はまさにわれわれのところでのように病院 Hospital を表す。この飲み物はロンドンでは至るところで身近に手に入れることができるので、ホガースが都市の地域を表すのにこのジョッキを利用するのは稀ではない。これらのジョッキは通りと地域の名前とともに表記されているので。ジョッキはしばしば、ドイツでの耕作用すきのように、薄明りの中に番人なしに、安全に神聖なもののようにある、そしてたくさんすきで耕すことがなされる家の前に、大量に。銘文を刻まれているこれらの容器はロンドンの道路を通る道しるべとして、ただ銘文と関係を持っているどの人にも役立つことができる。その内容をもっと詳しく知ることはちなみに用心深くなされなければならない。その内容はしばしばそれが質問者を導く固有の道を持っている。その二人の同僚たちの物語は同じ仕事場の織機のところで始まる、しかしその物語の流れはすぐに強く分岐し始める、そして両者はその主人公の名誉のために行われる行列で終わる。怠惰な男は大きな負債の累積 [Auflauf] のもとで世界をあきらめ、有名な空気浴勲章 Lift-Bad-Orden [絞首台の兄弟。また The most honourable order of the bath, 1399 年に設立されたイギリスの功労勲章の暗示] の中で彼の行為の終わりに静止状態に入る。その勲章ではとても古い風習に従って騎士がリボン [das Band] を身につけるのではなく、リボンが騎士を身につけるのである。彼は絞首刑にされる。勤勉な男はロンドンの市長になる、そして幸福な民衆の歓声のもとでマンションハウス [Mansion-Haus, ロンドン市長官邸] への壮麗な入場をする。その公邸の意義と建築様式は名誉と同様に堅牢さの側面から、あの一、二、三本柱の jota-gamma-pi[★]と三本足の風通しの良い団体施設から際立っている。 - 二人の同僚の二重の歩みと素描家の道をホガースは最初の十枚の版画 [Blatt] の上で彼の絵の周囲の枠を装飾する際に感覚的に知覚できるようにすることを試みた。一つの側に常に、男が掛けられるロープが、別の側に、その男が掛けられる金の鎖が。足かせは王笏に、鞭は正義の剣に向かい合っている。

★ Jota, Gamma, Pi, ギリシア文字の I, Γ, Π は杭としてそして絞首台の形としてふだんはほとんどギリシア文学を気に掛けない人々にとっても知られている。三脚台は一般に知られている司法器具と台所器具として説明を要しない。 - 通りすがりに言うならば、最善の絞首台の形へのこの模索から、人はそのための本来的な理論を持っていないように見える。今、私が聞いているように、われわれの第一級の作家たちの証言によれば、その理論のさしあたりの知識なしには一つの良い詩も作られないので、人は、最善の絞首台の形はより良く見えるのではないと信じる理由を持たねばならない。その空間が欠けているのでここですべての理由を挙げないが、私は思

うのだ、絞首台が正義の女神 Justica を表すならば、人間本性と同様に、その本来的な化石である古代が一番よく満たされると。女神は左腕を伸ばして、そこに彼女は秤の代わりに、勲章大綬のところで彼女が捕まえたノハラツグミを振っている。

[以下次号]

後記

この分冊は第一から第六版画を含んでいる。「勤勉と怠惰 Industry and Idleness」のシリーズ全体は 12 の版画を含んでいるので、第 6 から第 12 版画のためにゲッティンゲンポケットカレンダー 1792 年に印刷された、「勤勉と無為の結果」の解説が援用された。エッシェンベルク (Eschenburg) への手紙、1798 年 2 月 11 日。「Industry and Idleness の 4 版画をリーペンハウゼンはすでに完成した。オリジナルと同じ判型で。オリジナルは先行する作品の場合よりもそもそももっと小さい。現在の版画の場合にリーペンハウゼンは主要人物において筆を間違えなかったわけではないが、あなたはそれらの中に芸術家を賛美しなければならないだろう。それらはオリジナルと区別されない。復活祭にそれらの何かが現れるかどうか私は言うことができない。現れるならば、それはその物語を構成している 12 の版画のうちの 6 の版画となるだろう」。これは、初めから出版社と編集者の間に第五分冊を 6 枚の版画で出版させることが計画されていたことを証明している。そうしてリヒテンベルクが死ななかったならば、第六分冊は 1800 年に「勤勉と怠惰」の継続の第 6 から第 12 版画とともに現れただろう。

リヒテンベルクの著「リヒテンベルクの手帖」I, II と別館「索引」(2023 年) 鳥影社が出版されました。

(よしもち せんじ 東北学院大学 名誉教授)